

# 「愛しのティツィア」

日本へ旅した最初の西洋婦人

オランダ | カラー | 2007 | DVD52分ドキュメンタリー

3月30日(土)

09:30開場、10:00上映

なかのZERO視聴覚ホール

JR、東京メトロ東西線中野駅南口より徒歩8分

\*上映後に『ティツィア』著者ルネベルスマ氏のトーク、  
質疑応答、著者サイン会がございます。

入場無料

先着順  
100名様



## 作品概要

1817年、オランダ商館長の妻が乳飲み子を連れて長崎の出島にやって来た。鎖国時の徳川幕府は、大きな衝撃をうけ、滞在を許さず、婦人は失意のうちに故国に戻り、2年半後に亡くなった。この女性の名は、ティツィアベルスマ。日本に初めて旅した西洋婦人である。

彼女は歴史の陰に埋もれ、日本でもオランダでも知る人は殆どいない。しかし、彼女が残したイメージは、西洋婦人の象徴として無数の形で残されている。

この映画は、彼女の子孫である作家ルネベルスマ氏が、オランダと日本の歴史を両国で分かち合えたらとの願いから、資料を集め、書き上げた『ティツィア』を原案に製作されたものである。



## 原案者ベルスマ氏のコメント

鎖国当時の約200年前、長崎の出島にオランダの商館があったが、多くの人々は日本人とオランダ人がどういう関係にあったかを知りません。日本の歴史の一部を日本人々と分かち合えたらというのがこの映画を作った主な目的です。また、オランダの歴史において、本の脚注位としてしか知られていないティツィアのことを、オランダの人々に知らせることも意図しました。そして、歴史の中で女性が重要視されていないという事実にも常々感心があったので、彼女の存在を知ってもらいたいと思いました。この作品が、特にオランダと日本の間での理解と文化交流を促進し、一人でも多くの人に見ていただけたら、と願っています。

## スタッフ紹介

監督: **PAUL KRAMER**  
ポール クラーマ

著名なドキュメンタリー映画監督。アムステルダムのオランダフィルムTVアカデミー卒。後にヴィジュアルコミュニケーションを専門とする国立アカデミーにてヴィジュアルアートを学ぶ。オランダでは数多くのテレビシリーズ、記録映画、教育番組を製作。専門はイスタンブールのファッションからモロッコのデザインの記録映画や美術館シリーズとありとあらゆるアート分野に及ぶ。



プロデューサー:  
**RENÉ MENDEL**  
ルネ メンデル

オランダの映像製作会社の中でも著名なインターアクト社代表。現代アーティストについての数多くの記録映画を製作。本作品の他、オランダのはじからはじまで歩いた日記をもとにした映画『1823年の夏』も製作。



原案: **RENÉ BERSMA**  
ルネ ベルスマ

12歳のときカナダに移住。1970年日本女性と結婚し、カナダの外交官となる。2000年退職、現在ヨーロッパ在住。1998年ティツィアが祖先に当たることが分かり、彼女の珍しい体験に魅せられ2002年に『ティツィア』の英語版、2003年に日本語版、2004年と2008年にオランダ語版を出版。2006-2007年にドキュメンタリー映画「愛しのティツィア」が製作され、オランダのテレビで4度放映され好評を得る。現在、ティツィアと日本へ同行した乳母ベトロネラの伝記小説を執筆中。



なかのZERO視聴覚ホール

〒164-0001 東京都中野区中野 2-9-7

上映に関する問い合わせ: テス企画

連絡先: atsuko.bersma@gmail.com

入場無料

Tel. 03-5340-5000

Tel. 03-5991-3486

先着順 100名様

<http://nicesacademia.jp>

[cinemajournal@mb.point.ne.jp](mailto:cinemajournal@mb.point.ne.jp)